



3 果実類を中心とした農産物展示では、オーガニックを謳うものも少なくない



2 お国柄が現れた開会のセレモニーではダンスパフォーマンスも



1 開会セレモニーで挨拶する駐タイ・オランダ大使



17-19 March 2015  
Bangkok International Trade & Exhibition Centre  
Bangkok Thailand



4 会場正面にしつらえられたタイの果実類や花をディスプレイしたHORTI-ASIA（園芸展）の象徴的な展示

# いいのだ!

文・写真/昆吉則

タイのバンコク国際貿易展示センターで3月17〜19日に同時開催された、HORTI・ASIA 2015およびAGRI・ASIA 2015を視察する機会を得た。

タイの展示会開催会社であるVNUエキシビションズ・アジア・パシフィック社（VNU EAP）が主催する同展示会は、タイ国農業・協同組合省が後援し、オランダ政府がオフィシャルスポンサーとして支援している。今回で4回目になる園芸展HORTI・ASIAに加え、今年



5 タイの蘭輸出協会の展示ブースは華やかだった



6 大田花きのシニアアドバイザーの上田潤氏による日本市場を中心とした花きマーケットのレクチャー

## タイ農業展示会視察レポート

# なぜ、ここに日本がいな

からは農業機械と加工技術に関するAGRI・ASIAが併催されるようになった。

出展者はオランダ、スペイン、ドイツなどのヨーロッパ勢に加えて、中国、韓国などアジア20カ国以上から約200社。主催者の発表によれば、マレーシア、ベトナム、インドネシア、カンボジアなどのASEAN諸国を中心に61カ国から約8000人の参観者があった。

園芸関係の展示では園芸技術のほか、タイ国の蘭輸出協会をはじめ、各種の果実や野菜、花類、その他の農産物生産団体などが、海外のバイヤーにアピールをしていた。

一方、農業機械の展示は、中国、韓国、台湾からの展示が目立ち、日本企業は水分計のケッツ科学研究所1社であったことは寂しく感じた。

### ▼成長著しいアジア農業での日本企業の存在感に期待

展示内容は、日本の生産者にとって目新しい技術はほとんどない。しかし、バンコクというASEANの中心都市で開催される展示会として日本企業はもっと注目するべきだ。

たとえば、マレーシアはオランダの種苗や園芸技術を背景に菊の生産地として成長しており、我が国への菊の大輸出国になっている。また、



7 8 9 タイの展示会だが、オランダの園芸業界、そして国を挙げて世界に進出するオランダのパワーを感じさせる展示会だった。園芸分野では展示の多くの部分がオランダ企業で占められ、スペインやイスラエルの会社がそれに次ぐ。展示会のオフィシャルスポンサーになる力の入れよう、オープニングセレモニーでも駐タイオランダ大使の歌を織り交ぜたスピーチが観衆の共感を誘っていた。



10 11 12 水田農業関連の展示は中国、韓国などの機械が中心  
 13 ニューホランドなど欧米のブランドのトラクターは一際大きく見えた  
 14 乗用型機械のほか、タイ国内で使われるような歩行型機械の展示もあった



AGCO、CASE、その他の欧米メーカーの展示も少なくない

15 16 日本企業で唯一参加した、ケット科学研究所の展示にはASEAN各国の参観者が集まって、話を聞いていた



タイ国内でもオランダの種苗を使った花き生産が成長している。その他、インドネシアをはじめとしたASEAN地域の園芸は成長が著しい。さらに、タイやベトナムなどを中心に水稲生産が盛んな地域であり、我が国の稲作機械技術が最も求められている国々である。

すでに、本誌読者を含めた少なからぬ日本人や日本企業が、アジア各地で水稲生産や各種農業に取り組んでいるが、その面でも、オランダや中国、韓国に遅れをとっている。たとえば、クボタはタイ国内に現地法人を持っているにも関わらず、ここに参加していなかった。

まさか、ASEAN地域に日本の農業機械や技術が移転されると、日本の農業が脅かされるなどという時代錯誤なことを考える業界ではあるまい。アジアで日本だけが最高の農産物マーケットであるという時代はすでに終わっている。バンコクの街中には日本のコンビニエンスストアが至る所にあり、日系の和食レストランもたくさん出店している。現在のところ小規模だったが、いずれは規模の大きな展示会となるだろう。今後、日本の農業経営者が海外展開するためにも日本の企業がこうした展示会で存在感を示すようになることを期待したいものである。